

令和5年度第3回長府警察署協議会会議録

開催日時	令和6年2月19日（月） 午後2時から午後3時40分までの間	
開催場所	長府警察署 講堂	
出席者	委員	田尾委員、空田委員、平山委員、池田委員、下谷委員、藤野委員、金子委員、属委員 計8人
	警察署	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域第一兼地域第二課長、刑事課長、警備課長、交通課係長 計9人
議題	交通事故抑止対策の推進	
<p>1 会長挨拶</p> <p>本日はご多忙の中お集まりいただき、お礼申し上げます。</p> <p>昨年11月、警察本部で開催された警察署協議会会長会議に出席し、当協議会の活動として、老朽化した警察署庁舎や設備の改善を提言した結果、市民サービスや警察職員の士気向上につながったことを発表した。また、他の協議会の活動として、下松警察署協議会の委員が、地区の高齢者をうそ電話詐欺の被害から守るため『だれでもカルタうそ電話詐欺版』というものを独自に入手し、交番勤務員とともにカルタ会を企画して防犯指導を行ったと紹介された。素晴らしい取組で、とても印象に残っている。</p> <p>本日の諮問事項は、『交通事故抑止対策の推進』である。委員の皆様にはいつもどおり忌憚のない意見を出していただきたい。</p> <p>2 署長挨拶 (省略)</p> <p>3 業務説明（署長）</p> <p>資料に基づき、以下の項目について説明した。</p> <p>(1) 警察安全相談</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 取扱件数</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 主な相談内容と受理件数</p> <p>(2) 犯罪情勢</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 刑法犯の認知件数・検挙件数</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 人身安全関連事案の発生状況</p> <p>(3) 110番受理状況（受理件数）</p> <p>(4) 交通事故の状況</p>		

4 諮問事項説明（交通課係長）

資料に基づき、交通事故抑止対策の推進について説明した。

5 協議

（委員）

高齢ドライバーとは何歳を指すのか。また、高齢運転者の免許返納について、返納が多い年代はあるのか。

（署長）

高齢ドライバーは65歳以上の方である。運転技能に関しては、年齢だけではなく、個人差もあるので、安全に運転するためには自身の状況を知ることが大切である。

免許証を返納する方は様々で、特定の年齢が多いなどの傾向はない。

（委員）

優遇措置などのメリットが大きければ、返納する人も増えるのではないか。

（署長）

免許証返納者に対する優遇措置の拡大については、警察本部の担当部署と連携して対応していきたいと考えている。

（委員）

地域によっては利用できる公共交通機関が少なく、なかなか返納に踏み切れない人も多いと思う。

（委員）

公共交通機関が充実していないことや、公共交通機関を利用する経済的な負担などから、返納をためらう人が多いのではないかと思う。私自身も車で移動ができなければ生活に支障が出ると感じており、悩ましい問題だと思う。

（委員）

私は次回更新時に免許証を返納しようと考えている。免許返納時、こちらが申請すれば運転経歴証明書を交付してもらえると聞いたが、有効期限はあるのか。

（署長）

有効期限はない。

（委員）

高齢者の事故が多いとの説明であったが、山口県は人口に占める高齢者の割合が多く、特別、高齢者の事故が多いとは言えないのではないか。

（署長）

死亡事故の件数は減少傾向にあるが、更なる減少のためには、事故の傾向などを分析し、集中的に力を入れることも重要であり、その内の一つとして高齢者への対策を進めている。

（委員）

昨年交通死亡事故は国道で発生しているが、国道で信号機がない場所を横断する高齢者を見かけることがある。周辺に信号機がないため仕方なく横断しているのだと思うが、このようなことを防ぐためにも信号機を増やすことはできないのか。また、国道を横断している歩行者がいる場合には、警察に通報してもよいのか。

（署長）

全国的に信号機や標識等を減らしていく流れになっているが、必要なものについて

は設置を検討することとしている。

バイパスでの道路横切りは危険な行為であるので、警察官が発見した場合には、当然注意する。皆さんが、そのような人を見かけた際にも、通報をお願いしたい。

(委員)

信号機等を減らしているという話であるが、安全に関することは減らすべきでない。信号機のほか道路のラインの摩耗など、予算がないからと言って後回しにすべきではないと考える。行政の立場上、どうしても予算の問題があるとは思いますが、警察からも働きかけを行ってほしい。

(署長)

道路のラインの摩耗については、これまでも、情報があれば現場を確認して管理者への働きかけを行っているところである。今後も引き続き実施していくので、情報提供をお願いする。

(委員)

ハンドサインは、どのような合図を出せばよいのか。子供たちは手を挙げれば車が止まってくれるものと思い、あまり周囲を確認しないで横断することがあるため、運転していて危ないと感じたことがある。

(委員)

道路を横断しようとする人と横断歩道手前で停止したドライバーとの間で、明確な意思表示を行うことが大切だと思う。お互いが『だろう』という感覚では、かえって危険だと思う。

(署長)

ハンドサインについては、歩行者と運転者、双方の意思疎通が大切である。歩行者の明確な意思表示があれば車は止まってくれるので、しっかり手を挙げるなど、ドライバーに対するアピールを行ってほしい。

(委員)

歩行者の道路横断について、若い人であれば横断できる場面でも、高齢者は判断や体の動きが遅れてしまうなど、年齢により感覚が異なると思う。ハンドサインによる意思表示も必要だが、年齢的な身体能力の変化を自覚して、無理のない行動をとることが大切だと思う。

(委員)

身体能力の低下は避けられない問題であり、道路の横断や車の運転では、若い頃とは感覚が違うということを知覚する必要がある。また、高齢になると身体能力の低下に加え、人によっては認知症の症状も出ることがある。車道と歩道の区別がつかず、車道を歩いてしまう人もいると思うので、皆が「そのような方も道路を利用している。」という認識を持つことが大切だと思う。

(委員)

小学生が横断歩道を渡った後、止まっている車に対してお辞儀をする場面を見たことがある。このようなことは、学校で教えているのか。

(署長)

学校での指導の効果もあると思うが、警察が行う交通教室でも、このような行動が浸透している他県の事例を紹介しているところである。

(委員)

高齢ドライバーも安全運転に努めていると思うが、ゆっくり走る車に対して、車間

を詰めたり、あおったりするドライバーもいる。高齢者マークなどを表示して周囲から分かるようにすれば、多少は気にする人も増えるのではないかと思う。やはりお互いに思いやりを持って運転することが大切だと思う。

(委員)

あおり運転等の危険な運転への対策として、ドライブレコーダーの活用も効果的だと思う。同時に、記録していることで安心感を持つこともできる。また、自分自身に対しては、録画しているという意識から安全運転を心がけることができると思う。

(委員)

死亡事故が減少している理由の一つとして、車両の安全機能の向上も考えられるのではないか。このようなものが今後も発展していけば、死亡事故防止につながると思う。

(署長)

自動車メーカーの努力による車両安全性能の向上のほか、救急医療の発達や道路環境の整備なども死亡事故の減少につながっている。

ドライブレコーダーの設置により周囲の状況や事故発生時の状況を記録することができるとともに、常時録画されているため、「自分も安全運転に努めよう。」という意識を持つことができると思う。

(委員)

地元にある大きな交差点では、赤信号で交差点に進入してくる車がいるため、青信号でも動けなくなることがある。高齢者だけでなく、全てのドライバーが安全運転の意識を持つことが大切だと思う。

(署長)

交通取締りに関しては、国道における信号無視を始め、横断歩行者妨害など、交差点での事故防止に資するものを中心に取り組んでいるところである。交差点における危険な違反があれば積極的に取り締まりを実施していく。

管内の事故の特徴として、鹿等の野生動物との衝突が多い。特に、夜間はハイビームの活用と速度、車間距離に注意して、事故防止に努めていただきたい。

(委員)

夜間に運転していると、犬の散歩をしている人にヒヤッとすることがある。飼い主には気付くことができるが、犬には気付きにくい。夜間は、犬にも反射材を着けた方がよいのではないか。

(署長)

パトロールで危険な状態を認めた際には声かけをしたいと考えている。最近は犬を守るアイテム、例えば反射材付きのリードなどもあるので、そうしたものの利用も広報していきたい。

(委員)

私が利用する道路では、道路脇の雑草が道路にはみ出しており、バイクが道路の中央寄りを走ることで、それを追い越す車が更に中央に寄って走行する危険な場所がある。このような場合には、どうしたらよいか。

(署長)

場所を教えていただければ、道路管理者に連絡し、対応を依頼する。

(委員)

交通事故抑止というのは永遠のテーマだと思う。例えば、うそ電話詐欺については、

知らない番号には応対しないなどの対策をとれば被害を防ぐことができるが、交通事故は自分がどれだけ注意していても発生する可能性があり、決定的な対策はないのではないか。そのような中で1件でも事故を減らそうとしている警察には、いろいろな苦勞があると拝察する。

(委員)

交通事故抑止は、本当に難しいことだと感じる。今回、警察の様々な対策を知ることができたが、まずはこれらの取組を継続していくことが大切だと思う。

交通安全意識を持つためには、事故を自分のこととして認識することが大切だと思う。学校や会社での交通安全教室、免許更新時など、あらゆる機会に事故の事例に触れると緊張感が保てるのではないか。

(委員)

高齢運転者の中には、自分の運転に自信を持っているため高齢者マークを付けたがらない人もいる。積極的にマークを付けたり、ハンドサインや反射材等を活用して存在を示したりすることが大切だと思う。また、高齢者を守るという意識の向上も必要だと思う。

事故防止のために自分ができることや気を付けていることを、会合などの機会を通じて周囲に伝えていこうと思う。

(署長)

交通事故は関わった人を不幸にしてしまうと身近な人に伝えていくとともに、自分の身は自分で守るという意識を持つことが大切である。交通事故は、一番身近な危険だと認識した上で行動することが重要である。

6 その他

次回会議は、令和6年4月から7月の間で調整することとした。